

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女ホ

男子 女子 3 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
県立水海道第二	25	12	7	県立四日市商業
		13	8	
		—	—	
		—	—	
		—	—	
		7mTC		

関東ブロック 1 位の水海道第二と東海ブロック 2 位の四日市商業の対戦。四日市商業のスローオフで始まる。先手を取ったのは水海道第二 5 番主将相澤のステップシュート。四日市商業は速いパス回しから 15 番村田がミドルシュートを狙うが得点とならず、対する水海道第二は速攻を仕掛け点数を重ねる。8 分水海道第二に警告が出たのをきっかけに四日市商業は差を詰め 4-3 で 10 分を経過する。しかし、その後も水海道第二が少しずつ差を広げ 12-7 で前半を終わる。水海道第二 5 番主将の相澤は 8 得点を挙げる活躍を見せた。

後半開始から水海道第二は連続 4 得点を取り突き放しにかかる。四日市商業も 15 番村田や 13 番小川の得点で食い下がるが、なかなかリズムがつかめず 23-11 で残り時間が 10 分をむかえる。終盤になっても水海道第二のスピードある攻撃は続いたが、残り時間 5 分を切って四日市商業も粘りを見せて連続 4 得点をあげる。しかし、前半、後半を通じて常に流れを放さず、持ち味であるスピードあるプレーを続けた水海道第二が勝利した。

2016 年 3 月 26 日

記載者氏名 石井 慎也

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女へ

男子 女子 3 回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 B コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
大阪商業大学堺	21	10	16	県立鹿児島南
		11	19	
		7mTC		

3回戦、両チームとも堅いディフェンスによりなかなか得点できなかったが、大阪商業大学堺の2番小川が速攻でシュートを決めると、9番中筋、5番濱田と得点をして前半10分で大阪商業大学堺が2点リードした。そのまま大阪商業大学堺が勢いに乗ると思われたが、前半11分過ぎから県立鹿児島南の2番吉留、3番伊地知、4番大森、7番森重の連続7得点で逆転し、差を5点まで広げた。前半21分過ぎに県立鹿児島南が退場により1人少なくなったが、大阪商業大学堺はその数的優位を活かせず、逆に3連続得点を許した。大阪商業大学堺がタイムアウトを取った前半24分過ぎからは一進一退の攻防が続き、県立鹿児島南の6点リードで前半が終了した。

後半に入り、県立鹿児島南が着実に差を広げ、後半開始7分で差を11点まで広げた。後半13分過ぎ、さらに後半19分過ぎに大阪商業大学堺はタイムアウトを取り、巻き返しをはかろうとしたが、県立鹿児島南の堅いディフェンスを崩すことができなかった。逆に県立鹿児島南は安定したディフェンスからの速攻で得点を重ね、35対21で大阪商業大学堺を退けた。

2016年 3月 26日

記載者氏名 真瀬田 英雄

戦 評 用 紙

男ハ

男子・女子 3 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸市立中央体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
大分	30	<table border="1"> <tr> <td>18</td> <td>—</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>—</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3">7mTC</td> </tr> </table>	18	—	10	12	—	13	—			—			—			7mTC			23	昭和学院
18	—	10																				
12	—	13																				
—																						
—																						
—																						
7mTC																						

九州ブロック覇者の大分と、鉄壁なDFと高さのあるシュートで2回戦を勝ち抜いた昭和学院との一戦は、昭和学院のスローオフで幕が上がる。先制は昭和学院。10番原が見事にパスカットをし、先制のシュートを決める。対する大分は4分15秒に得た7mスローをきっかけに3連続得点を奪い、逆転に成功。中盤、昭和学院は16分17秒、17分25秒に続けて退場者を出す。このチャンスを逃さなかった大分は順調に得点を重ねる。ディフェンスの乱れからリズムを崩した昭和学院は波に乗り切れず、パスミスも目立ちはじめ、8点ビハインドで前半を終える。後半も昭和学院が先制し、息を吹き返す。しかし、大分も簡単には主導権を渡さない。13分38秒、18番松本の2分退場により昭和学院の勢いは止まったかと思われたが、GK柳下のファインセーブでさらに勢いづく。大分も負けじと得点を重ねる。終盤21分59秒、昭和学院・木村が2分退場。その後は大分が猛攻をかけ、最後まで主導権を握り続けた大分が30対23で勝利した。

平成 28 年 3 月 26 日

記載者氏名 石田 聡

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

ト

男子 3 回戦

会場 神戸国際大学附属高等学校体育館

コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
香川中央	32	16	15	市川
		16	10	
		—	—	
		—	—	
		—	—	
		7mTC		

前半序盤、流れに乗った市川が得点を重ね、9分過ぎの時点で香川中央に5点リードを取った。こ

こで香川中央のタイム。このタイム明けから、前半中盤は香川中央の速攻が効果を上げ、追い上げにか

かり、20分には2点差に詰め寄った。今度は市川がタイム。前半戦、終盤は攻守が目まぐるしく入れ

替わる接戦となった。23分、香川中央が追いつき、12点同点とした。29分に香川中央が1点勝ち

越し、市川15点、香川中央16点で前半戦を終えた。

後半、互いの堅守の中にも、香川中央が守備にも勝り、流れは変わらなかった。ロングシュートや逸球

を素早く拾っての速攻も冴え、点差を広げていった。終盤、市川はマンツーマンディフェンスで対抗す

るも、香川中央が7点リードで勝利した。

2016年 3月 26日

記載者氏名 原田 邦彦